

仙台の思い出

「振り返れば青春」

仲澤聖則（1976年卒）



＊初めての仙台

春高樓の花の宴 巡る盃かげさして、作詞した土井晩翠の名前しか知らなかった仙台は、1970年当時、宇都宮から電車でも三時間かかる遠隔の地でした。下宿のお婆さんの山形弁は聞取れず、テレビ民放も二つしかなかったので、大変な所に来たものだと、最初は戸惑いました。

＊川内の2年

当時の教養部は、散在した米軍の建物を使用して、馬小屋と呼ばれ不便でした。また大学紛争の名残で休講も多かったので、ノンポリの自由を謳歌できました。授業をさぼって、同じ高校から入った法学部の友人達と広瀬川の河原で野球をしていた午後、臨時ニュースで三島由紀夫の割腹自殺が報じられました。時代を画するような事件が、予想外にいつでも起こりうる

ことを実感したものです。

＊教養主義を目指す

多方面の読書が人格形成に役立つという昔の教養主義を信じていました。それで知識人作家の本を乱読し、岩波書店の「世界」を購読していました。また、伊東静雄、立原道造、中原中也などの詩集や「ユリイカ」までも渉猟した記憶があります。

しかしながら、大学生一般の例にもれず、飲酒と麻雀に情熱を奪われた日々でもありました。教養部では文系の友人と、星陵町では医学部同級生との週末麻雀に浸りました。徹夜できる体力がよく続いたものだ、今では感心するばかりです。

＊クラブ活動

弓道を中学、高校と続けていたので勧誘され、医学部弓道部に入部し、6年間継続しました。最後は主将を務めました。功績としては、クラブを潰さず維持、新入生を補充したことでしよう。というのは、当時、我が部は東医体で常に中位以下のレベルでしたが、二十一世紀の医学部弓道部は、東医体の複数回優勝、全医体でも優勝実績を誇る強豪になっているからです。後輩が偉いのですが、まさに隔世の感があります。

＊星陵町時代

解剖学石井教授の恐怖の口頭試問

を切り抜けた後、虚脱感で薬理学試験を多数の同級生と一緒に落としたことを、楽しく思い出します。医学部での古い階段教室での講義や、風情のある中庭での昼休みキャッチボールなどの時間がフラッシュバックします。

夕食後は、北山から東北福祉大あたりまで、毎日のように散歩しました。また深夜には、バッハやモーツァルトの音楽、フルトヴェングラーの演奏などをヘッドフォンでよく聴いていました。いずれも孤独な発散でした。

目的意識が定まらず自分の未来が予測できない医学生にとって、あの頃は社会や医療の荒波を乗り切るための未熟な準備期間だったと考えられます。当時は年間4千人しか医師にならない良き時代でした。

＊大学卒業後の感慨

福島県いわき市を経て、内科から放射線腫瘍学に転向し、米国留学を含め都内二つの癌専門病院と栃木県内二つの大学に、交互に赴任しました。初期研修後に仙台に戻らず、他大学関連の施設で様々な医師や先達と広く交わり、何とか責務を果たして来られたことは、青春時代に培った柔軟な思考や対応力に負うところが大きかったのかもしれない。仙台での日々を、今では誇りとともに、懐しく思います。

関東良陵だより

2025年5月発行
(第59号)

東北大学関東良陵同窓会

春季総会・懇親会の案内

本年の同窓会総会・懇親会を下記の通り開催いたします。

昨年と同様に、総会と女性医師部会の同時開催とし、総会に引き続いてお二人の講師に講演をお願いしております。国立国際医療センターの早川佳代子先生（2001年卒）には「感染症科医の日常」と題してお話しいただき、新型コロナウイルス以来注目される感染症への対応について最新の情報を伺えるものと思います。続いて、獨協医大・呼吸器外科の千田雅之先生（1986年卒）に「呼吸器外科手術の40年」と題してご講演いただきます。呼吸器外科の目覚ましい進展に関するお話をお伺いできると思います。お二人のご講演の抄録は次面でご紹介しております。

会場は、昨年と同じく外国特派員協会（いわゆる外国人記者クラブ）を用意しました。講演の後には、着席の懇親会でお食事とお飲み物でお寛ぎいただきたいと思います。

懇親会では、同窓の皆様との世代間の交流をお楽しみいただくため、卒業年にはこだわらず、すべての参加者に1分間のスピーチをお願いして懇親を深めたいと思います。

多数の同窓の皆様とお会いできることを楽しみにしております。

東北大学良陵同窓会

関東連合会・会長・飯野 正光（1976年卒）

総会・懇親会プログラム

一、期 日

2025年7月19日（土）

外国特派員協会

千代田区丸の内3-12-3 丸の内二重橋ビル5階

電話 03-3211-1316

千代田線二重橋前駅 B5出口直結

午後4時より

午後4時30分

会長挨拶・事務局長報告など

午後4時45分より

「感染症科医の日常」

早川佳代子先生（国立国際医療センター・総合感染症科・医長）

「呼吸器外科手術の40年」

千田雅之先生（獨協医科大学・呼吸器外科・教授）

午後6時15分開宴

1万円

六、懇親会 七、会 費 八、出席申込

同封の振替用紙を用いて会費とともにお申込み下さい。連絡用のメールアドレスをお持ちでしたらご記入をお願いします。

（年会費納入のお願い） 2025年度会費のご納入も第4面に記載要領にてお願いします。

東北大学良陵同窓会 関東連合会 東京支部

〒121-0831

東京都足立区舎人3-11-26

株式会社 同窓会事務局

TEL: 0120-10-9899（内線 172）

FAX: 0120-10-9184

年会費 5 千円・総会会費 1 万円を同封の振替用紙より、ご納入をお願い致します。

略歴

1969年 栃木県立宇都宮高等学校卒業
1976年 東北大学医学部卒業
福島県いわき市立総合磐城共立病院内科
1978年 国立がんセンター病院内科レジデント
1981年 米国ブラウン大学・ロードアイランド病院フェロー

1983年 獨協医科大学放射線医学教室講師
1987年 癌研究会附属病院放射線治療科医長
1993年 自治医科大学放射線医学教室助教授
2001年 同 教授
2016年 友愛記念病院放射線腫瘍科部長
自治医科大学名誉教授

特別講演 1

「感染症科医の日常」
国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター
国際感染症センター
総合感染症科 早川佳代子



2001年に東北大学医学部を卒業後、感染症の専門医を志し、内科医として研修を開始しました。その後、国内の施設にて内科・感染症科の経験を積みました。より感染症科医としての診療力を向上させ、視野を広げるために2009年より米国ミシガン州のウェイン州立大学・デトロイト医療センターにて3年間のフェローシップ（2年間・臨床フェローシップ、1年間・感染対策・病院疫学フェローシップ）を行いました。

2012年に帰国後、現職である国立国際医療研究センター 国際感

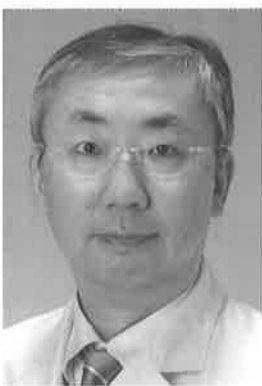
染症センター（DCC）の医員に着任しました。既に十分な経験を有していた一般感染症や内科疾患、性感染症に加え、輸入感染症やワクチン外来などにつき、自身も研鑽を積みながら後進の指導に当たりました。

2018年より総合感染症科の医長に任命されました。現在も感染症科外来・病棟・感染症兼診の指導医、ワクチン外来の担当医として臨床業務に従事しております。DCCではそのミッション達成のため1)質の高い高度な感染症診療、2)感染症領域の人材育成、3)感染症に関するコミュニケーション、4)感染症領域の研究開発の4つが活動の柱に据えられております。私自身も薬剤耐性菌を中心にした研究活動や公的な手引きの作成などの業務にも従事しています。

新型コロナウイルスの流行により、一躍注目を浴びることも増えた感染症業界ですが、我々の実際の業務内容はあまり知られていない部分もあるかと思えます。今回は病院勤務の感染症科医として働く自分の日常やここに至る経緯を通し、ざつぱらんに感染症科医の仕事を知ってもらえる機会になればと考えております。どうか宜しくお願いいたします。

特別講演 2

「呼吸器外科手術の40年」
獨協医科大学 千田雅之



学生実習では最後の年の葛西森夫教授の手術に入り、食道外科に進もうと思っていたが、ひょんなことから抗酸菌病研究所外科、すなわち呼吸器外科に進んだ。

当時の開胸法は、第5肋骨間を全部切り開き、第5、6肋骨は肋骨角の

略歴
学歴
2001年3月 東北大学医学部卒業
2009年3月 東北大学大学院医学系研究科 卒業

職歴
2009年より2012年
感染症科フェロー、ウェイン州立大学・デトロイトメディカルセンター
2012年から現在
国立国際医療研究センター 国際感染症センター

行するこの医療は諸々の問題を抱えつつ伸びしろのある分野である。

略歴
1986年 東北大学卒業
1990年 東北大学大学院修了
1992年 ノースウェスタン大学呼吸器科
1993年 コロラド大学呼吸器科
1995年 東北大学医学部シキムヒマラヤ学術登山隊
2008年 獨協医科大学胸部外科准教授
2010年 獨協医科大学呼吸器外科教授
2017年 日本呼吸器外科学会理事長 (21年)
2023年 日本胸部外科学会理事長

リレーエッセー

美容外科と再生医療

蘇 雅宏



落合博子先生からご紹介を頂きました蘇 雅宏と申します。東北大学を卒業した後、慶應義塾大学医学部形成外科教室に入局し、卒業8年目の平成12年に東京都江戸川区にて慶

友形成クリニックを開設しました。

保険診療の形成外科と自費診療の美容外科を主たる診療科として標榜していますが、仕事の内容は約9割美容整形手術でした。美容外科は他科との大きな違いは二つあると思います。一つ目は健康者を対象していますので治療の緊急性がなく、絶対的な必要性もありません。ですので、当クリニックは初診当日の手術は行いません。初診のカウンセリング後、患者に熟考の時間を与え、後日手術を行うというやり方を開業当時から一貫して来ました。但し、ネットの発達に伴い、遠方（海外を含め）の患者のオンライン診察や写真によるメールのカウンセリングにより、初めて来院した当日も手術可能になりました。

二つ目は美容外科の治療目的は患者を美しくすることですが、美しさというものは客観的な基準がなく、あくまでも個人個人の主観的な感覚になりますので術前のインフォームドコンセントがすごく大切になります。ひと昔前の美容手術はできるだけ自然な仕上げ、周りに気づかれないように希望する患者が始どでした。しかし最近特に若い方が周りの目を気にせず、派手な結果を好む患者が多くなってきました。さらに、スマー

トフォンの普及により解析度の良い写真色んな角度から沢山撮る機会が増え、患者が手術結果に対する評価も厳しくなりました。

開業すると大学病院や市中病院の診療内容と大分違い、戸惑うことも多々あります。中に数多くはないが治療法に困っているのが水疱瘡跡、妊娠線の治療です。手術、レーザー治療、ファイバー注入を色々試したが思うほどの結果を得ることができません。した。医局の先輩の貴志和生先生（現慶應大学医学部形成外科学教室教授）に相談したところ、コラーゲン線維の再構築能力があると言われる真皮線維芽細胞を用いた再生医療を教授され、治験的に水疱瘡や妊娠線などの治療に挑戦してきたが一定の満足は得られるものの、高い満足を得られるまでの結果を導き出すことができず現在に至ります。それとは別に良い結果を導き出したのは同時に行った線維芽細胞によるアンチエイジング、肌の若返りという美容目的の再生医療でした。当時アメリカではすでにLAVIVという名称で臨床研究も行われていた再生医療でしたので、私たちもいち早く本治療を実施しました。これまでの経験もあつたため美容治療は直ちに結果を導き出すことができました。しかし、患者

高さが切断していた。切断する筋肉は、広背筋・前鋸筋と、僧帽筋・大菱形筋の一部である。麻酔から覚めると患者は痛がりソセゴンの静注が必須であった。その後、硬膜外麻酔が導入されたが、それでも慢性疼痛も含めかなり痛いものであった。その後、ポート孔のみの内視鏡手術（VATS）が導入され、痛みは激減し、さらに単孔式VATSではほとんど痛くなくなった。現在はロボット支援下手術（RATS）の時代である。ポート孔は当初5ポートで導入されたが、通常の内視鏡手術よりポート数が多く、reduced-port RATSとして112個のポートで行われることも増えてきた。40年前には予想もしていなかったが技術革新により手術の低侵襲化が進んできている。

肺癌手術の治療成績も改善してきている。手術手技の均霑化による部分もあるし、術前診断の正確性が増したことによる部分もある。CTの普及により早期肺癌の発見数の増加は肺切除範囲の縮小ももたらした。また、各種TKIの出現や免疫チェックポイント阻害薬の登場は術後再発を劇的に減らしている。

呼吸器外科のもう一つの分野である肺移植においても、移植数は毎年確実に増加している。働き方改革に逆

の耳介後部から皮膚片を採取して、体外で患者の自己血清を用い、線維芽細胞を数週間培養し増やす。細胞培養“の過程や培養した線維芽細胞を患者の皮内（主に顔）へ注入する。細胞注入“の過程、一部の細胞を半永久的保存する“細胞バンク”、再生医療提供の全てをクリニック内で行うというのは想像以上に苦労することばかりの連続でした。これからはより肌の再生医療の効果をもっと高めていきたいと思っています。

略歴
1993年 東北大学医学部卒業
慶應義塾大学医学部形成外科学教室入局
1995年 茨城県水戸協同病院外科勤務
1997年 慶應義塾大学医学部形成外科助手
1999年 神奈川県平塚市民病院形成外科勤務

2000年 慶友形成クリニック 院長
2004年 医療法人社団慶友形成クリニック 理事長
2008年より 慶應義塾大学医学部形成外科 (美容外科) 非常勤講師